

暮らしの広場

がん
克服へ
【42】
工藤 明敏
■大腸がん編

Q 大腸ポリープを放置してはいけないのですか。

A 大腸ポリープの80%は腺腫と呼ばれ、これは長期間放置するとがん化する可能性が高くなるため、一定の大きさ以上になれば切除を勧めています。

大腸がんは進行すると外科手術が必要になりますが、早い段階では内視鏡切除が可能です。ポリープが大きくなったりがん化したりする前に治療を行うほうが、心や体への負担は明らかに少ないと思われず。

大腸ポリープの成長スピードにはばらつきがあり、ほと

Q&A 上

手術前もリハビリは大切

んどは数年かけて成長しますが、1年で急速に成長するものもあります。ポリープ切除後も再発することが珍しくないので、経過観察のため再検査を要します。

(阿知須共立病院消化器内科医師、鈴木千衣子)

Q 腹腔鏡で大腸がんの手術を受ける予定です。手術は初めてで心配です。

A 手術室は、マスクをつけたスタッフや多くの医療機器に囲まれた特殊な空間です。手術室看護師は手術前に患者さまを訪問して、麻酔や手術について説明し、安心して手術に臨めるよう努めています。

腹腔鏡での大腸がんの手術は、開腹手術に比べて多くの手術器具が使用されます。手術が安全でスムーズに行えるよう、臨床工学技士や滅菌技師などもサポートしています。

しかし、なにより大切なのは、患者さまご自身の回復への意欲です。患者さまの立場で回復過程に安心安全をプラスできるよう、手術室看護ス

タッフもお手伝いします。

(同院手術室看護主任、西村直弘)

Q 手術前からリハビリを行うと言われましたが、どんなことをするのですか。

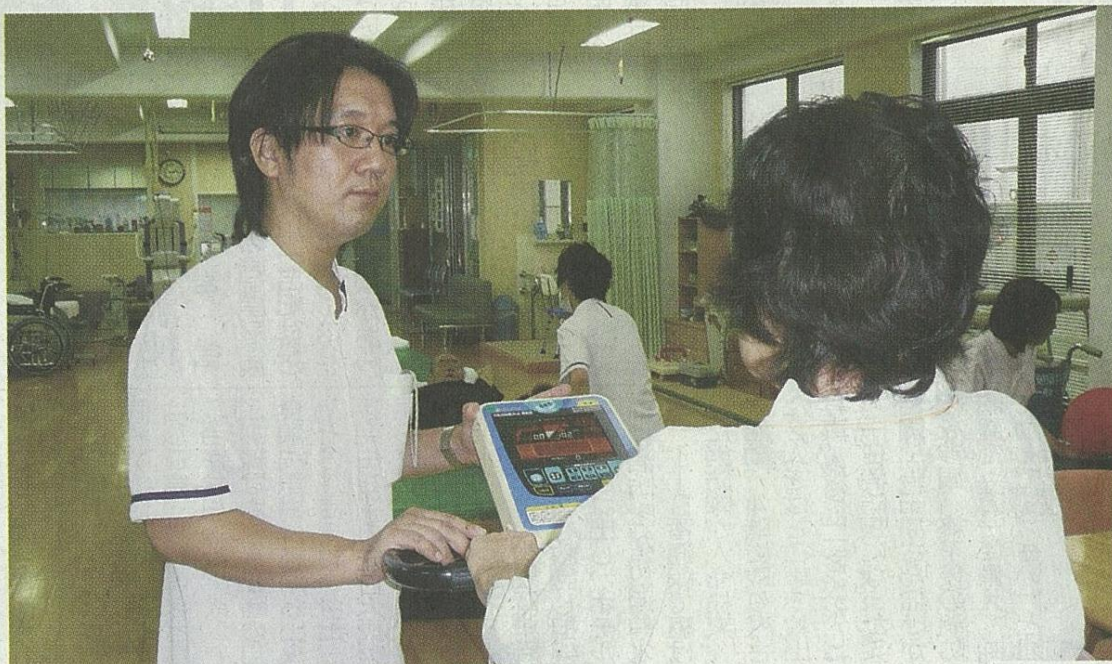
A 手術は体に負担がかかり、体力や呼吸機能が低下します。そのため手術前から自転車エルゴメーター(運動負荷装置)、腹式呼吸練習を行います。また、麻酔の影響で痰がたまり、肺炎などの合併症が生じる危険もあるため自己排痰法の練習を行います。

手術後は、合併症の予防として排痰と腹式呼吸を行います。手術翌日よりベッドから体を起こし、歩行練習を行います。体力の改善に合わせて歩行距離を延ばし、持久力の改善を図ります。

これらを実施し、体力・呼吸機能の回復と消化器官の活動を促し、早期退院につなげます。

(同院リハビリテーション技術科理学療法士、牧野由)

第2火曜日に掲載



自転車エルゴメーターでリハビリ指導中の牧野由理学療法士